

# 東北大学における 研究活動と学術情報

データ駆動科学・A I 教育研究センター長・附属図書館学術情報整備検討委員会委員長

早川 美徳

論文情報に限って研究者目線でみると...

**論文についてのメタ情報**      各種検索サービス、データベース

論文はどこにあるか      URL, URI

著者はどこの誰か      researchmap, ORCID 等

タイトル、アブストラクト、キーワード

引用文献

被引用文献      Web of Science等

**論文本体**      出版社ウェブ、各種リポジトリ、プレプリサーバー

本文

サプリメンタリ情報

使用データ

多くが出版社によって囲い込まれている

フリーミアム  
ビジネスモデル

「無償」部分

プレミア部分



## 2. 論文投稿・査読にまつわる情報サービス利用

### 論文作成

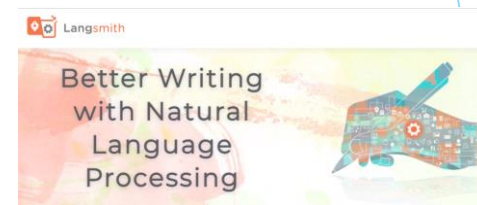
論文作成支援ツール・サービス 英文校閲、執筆支援等

剽窃チェック iThenticate

画像等のデータの健全性 画像不正検出ソフト (Lpixel社のLP-exam等)

投稿先ジャーナル選定 「ハゲタカジャーナル」DB (CABELLS社のJournalytics等)

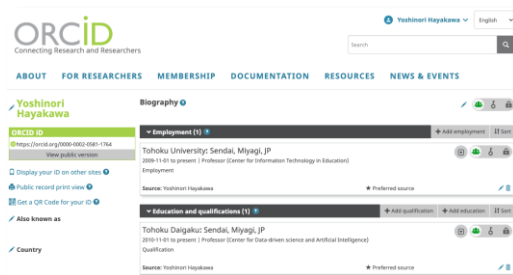
プレプリント公開 arXiv.org 等



### 投稿・査読

公式の連絡先 東北大メール, DCメール 「異動、退学、卒業問題」

研究者識別 ORCID



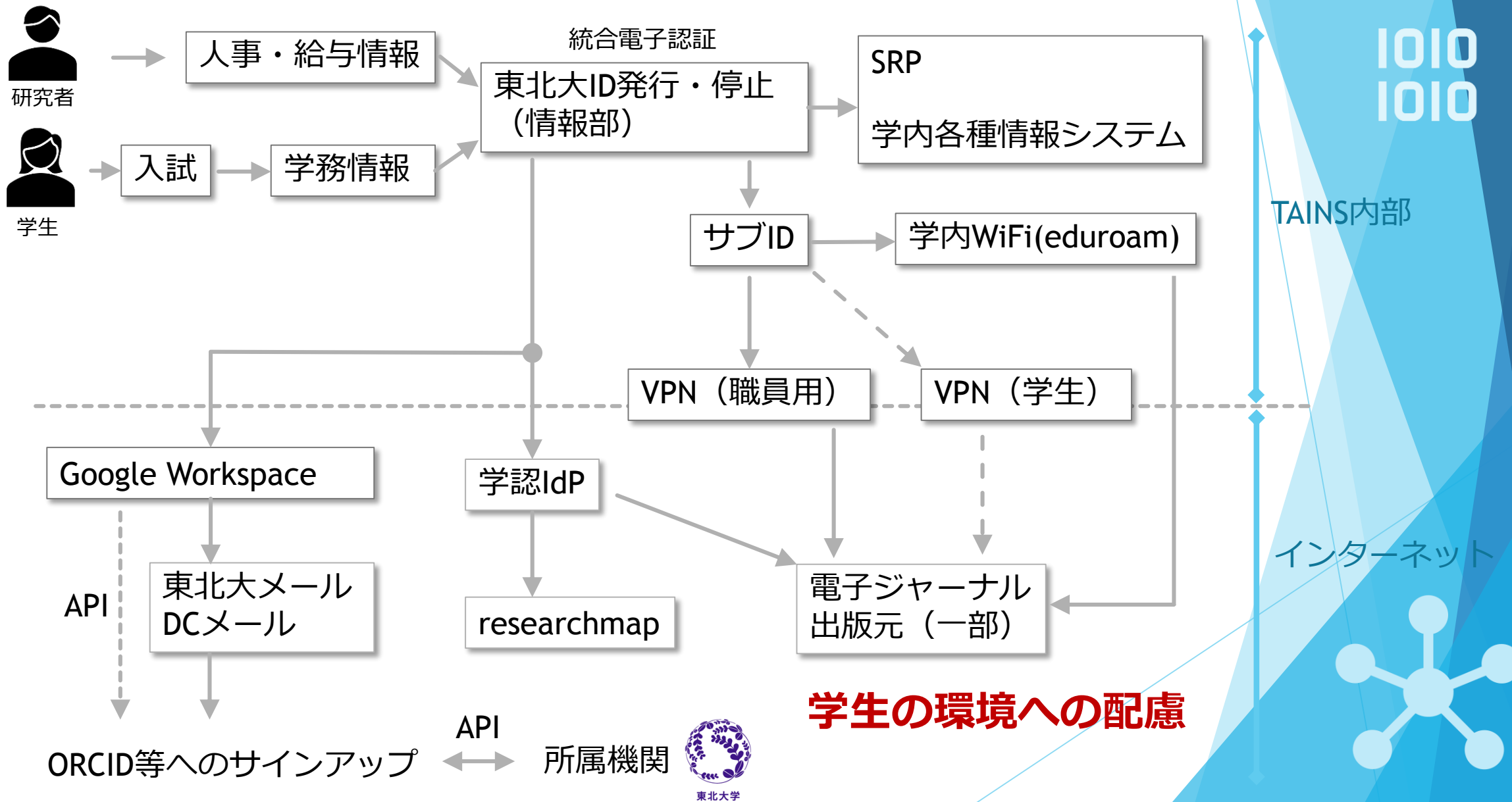
0123-4567-8901-2345

### 出版・公開

研究データ保管 原則10年間、部局毎にルール クラウド系サービスのポリシーの**非**永続性。有料化。



# 3. 学術情報を支えるインフラと情報連携



## 4. 個人的に思うこと

研究論文出版をビジネスと考えた場合の「正常な」あり方

閲覧を有償とするのなら、著者に応分の報酬が支払われるべき

著者はそれを原資に充て、自らの研究に再投資

よく読まれる論文の出版元がビジネスを拡大

が、そもそも論文公開は出版ビジネスには馴染まない・・・

「無償」部分と「プレミア」部分は逆転されるべきかもしれない

公的セクターでの研究成果の多くは「みんなのもの」

それに付加価値を与えるようなサービスには当然対価が支払われるべき

必要な情報基盤の整備と維持は公共事業として



## 5. 本学の学術情報整備の行方は？

### 従来の契約モデル

本学の現在の  
契約モデル

①電子ジャーナル購読料  
〔大学から一括で支出〕

②APC（オープンアクセス出版料）  
〔個々の研究者の研究費から支出〕

### 新提案の契約モデル

近年、各出版社から提案され始められている、オープンアクセスを主眼とした論文投稿料と抱き合わせた新たな契約プラン

Read & Publish契約モデル等様々出現

●購読料 + APC〔大学から一括で支出〕

※契約条件や論文公表の状況により、支払総額が変動

※大学としての支出額が減少する可能性もあるが不確か

例： 前年度の投稿論文数により、次年度APC割引  
購読料の他に、APCを予めデポジット  
購読料の支払以後、サービスとしてバウチャー提供  
APC無料というケースもあり

購読料と研究費の切り分けが複雑化

# 東北大学の研究を支えるための選択とは？